

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170200517		
法人名	医療法人 厚生会		
事業所名	グループホーム白鳥の里		
所在地	鳥取県米子市彦名町1210-1		
自己評価作成日	平成28年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3170200517-00&amp;PrefCd=31&amp;VersionCd=">http://www.kaiyokensaku.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3170200517-00&amp;PrefCd=31&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人ひとりが、入居者のあるがままを受け止め、共に支え合いながら支援を行っている。全てにおいて家庭的で温かな環境を目指し、入居者一人ひとりが、自分の役割・出番を発揮し、自ら意思決定できる働きかけをしている。何でも手作りをモットーに取り組んでおり、料理、行事なども工夫を凝らしながら、入居者が笑顔で楽しんで頂けるよう力を入れている。地域の行事に参加したり、小学校との交流を図るなど繋がりを持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の医療機関、老人保健施設、デイケア、デイサービス等が併設されているグループホームです。併設の医療機関に受診ができ状態変化が起きたときはホームに診察に来られ対応してもらえ利用者、家族は安心出来ます。食事は職員がすべて手作りされバランス良くおいしい食事が提供されています。地域の行事に参加されたり、小学校やボランティアとの交流を図られています。職員の笑顔がよく、入居者に優しくにこやかに接しておられ、家族にも丁寧な対応や利用者の様子もよく説明され家族から信頼されておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が共有できるように、目の届く場所に掲示しており、毎月のカンファレンスでの唱和を行い職員一人ひとり意識づけを行っている。	法人・グループホーム理念は各ユニットや目の届く場所に掲示してあります。毎月のカンファレンスで唱和し職員の理念の意識付けもされています。	グループホーム理念に沿ったケアについて考え、職員が目指すホーム等を話し合い理念の共有実践をされていくと良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や毎月、通信を配布し様子を伝えている。地区の小学生を招いて交流を図った。普段から散歩を通じて近隣の方と交流を図っている。ご利用者の散髪は、地域の理美容室を利用している。職員は地域の清掃活動に参加している。	あわしま祭り、彦名公民館祭に参加されています。今年から地区自治会長を通じ彦名小学校生徒を招き子供会と交流が行われました。彦名じげおこし芸能大会に出掛けられ「がいな太鼓、銭太鼓、ダンス等」を見られ楽しまれた。敬老会に芸能ボランティアも来られた。定期的ボランティアや読み聞かせ、敬老会に芸能ボランティアも来られるなど交流が続いています。事業所としても、地域の清掃に参加したり、公民館祭での健康相談や、地域の小学校へゲストティチャーとして招かれ講義をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、公民館祭で健康相談などを行っている。その際に、地域の方の相談を受けている。また、地域の小学校へゲストティーチャーとして講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に開催し、サービス状況等の報告を行い情報の共有を図っている。新たな取り組みで、子供会を通じて小学生との交流が持てた。	2ヶ月に1回開催されています。入居者の方の様子、事業報告、事故・ヒヤリハット報告、行事報告、意見交換等を行われている。運営推進会議を通じて、新しい取り組みである地域の子供会の小学生と交流が出来た。おやつ作りや行事の写真をスライドで見てもらい様子を伝えられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方に参加して頂き意見等頂いている。しかし、日頃から連絡を密に取れてなく不十分である。	運営推進会議に市の担当者が参加され、意見等を頂いています。市の研修案内や感染症の流行状況等の連絡を頂かれています。介護サービスの相談連絡も日常的にされており、協力関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束をしないように努めている。委員会を通して年2回の『スピーチロック廃止運動』を1週間行っている。やむを得ず、職員の人数不足の際に、2時間程度玄関の施錠を行っている。	身体拘束をしないケアの研修を年1回行われています。法人の身体拘束廃止推進委員会が中心となり、年2回『スピーチロック廃止運動』の期間が1週間づつ取られ、職員も理解し、ならないようにkを付けておられます。通常は玄関の施錠されていません。職員は身体拘束をしないケアの理解をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の学ぶ機会を持っていないが、日頃のケアが虐待行為にならないように、また、見過ごすことの無いよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方はおられず学ぶ機会が持てないが、以前、成年後見人制度を活用できるように、家族や関係者と話し合いを重ね、支援につなげたケースがあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族や申込者との十分な面談を行い、理解して頂けるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヵ月毎の運営推進会議や、年1回の家族会の際、頂いた意見を職員間で協議しケアや運営に反映するようにしている。	家族面会時に意見、要望を聞くようにされています。遠方の家族や面会が少ない家族には、便りや介護計画変更時に聞くようにされています。家族会は4月に行われており、この時も同様にされています。意見、要望は、協議され取り入れられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや面談を通じて意見や提案を聞き出来る限り反映させている。	月1回全体会、ユニット会議、カンファレンスが行われ、職員の意見、提案を聞かれています。管理者は年2回職員の個人面談を行い、意見、要望を聞き反映されています。管理者は法人会議に出席され、法人に対して意見、要望を伝えられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では人事考課を取り入れたり、研修会でモチベーションアップを図ったりしている。希望に応じて部署異動など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に応じて、内外部研修への参加を行っている。定期的なカンファレンスを利用し、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1年に1回グループホーム間で相互研修に参加し交流を図っている。また、過去に運営推進会議を通じて他グループホームとの交流が図れた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い情報収集に努めている。入居してから密にコミュニケーションを図り、受け答えしやすい質問や話しやすい雰囲気づくりを行い、思いを引き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い要望、思いを理解するようにしている。日頃の面会や電話連絡の際、近況を報告しながら要望や情報交換を行い、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で必要とされる支援を把握すると共に、グループホームで行える支援について十分説明を行い支援に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の生活の中、時に家族、時に人生の先輩としてアドバイスや生活の知恵を教わっている。個々の残存機能を把握し役割分担をし、一緒に生活している関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの行事、運営委推進会議等への参加を呼びかけ実際の生活を見て頂く機会を持っている。来所の際には、日頃の様子をお伝えし関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の会話の中から情報を引き出し、馴染みのある場所に出掛ける等の外出支援を行っている。中には日帰りではあるが自宅で過ごして頂けるよう支援も行っている。	墓参りに家族と一緒にいかれたり、馴染みの理美容に行かれる方もあります。友人が面会に来られる方もあります。月1回位日帰りで自宅で過ごされる方、退職した職場の見学ツアーに行かれたところ、仕事の役割など覚えておられた方もあった。場所や馴染みのある関係が途切れない支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が築けるように見守りをしたり、間を取り持ったりしている。トラブルがあった際には環境を見直したり職員が介入したりしながら素早く対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてもグループホームでの生活情報を必要に応じて提供したり、面会行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から何を望まれているかを察知し、把握し希望に添えるケアができるよう努めている。表現が困難な方には、表情や行動から汲み取るよう努めている。	日常生活や様子や会話、家族、知人から生活層等を情報収集し、希望、意向の把握に努められ、実現出来るよう支援されています。困難な方には表情や行動から汲み取り支援されています。把握した情報は、職員全体で共有されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境など、家族や知人から情報収集を行っている。収集した情報は、記録に残し職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが役割や出番を持った生活を送ることが出来るように、事前や折に触れ情報収集するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か変化や問題があった場合は、都度ケースカンファレンスを行い、検討しケアに活かしている。介護計画見直しの際には、ご本人、ご家族、各関係者と話し合い作成している。	モニタリング月1回。評価3～6ヶ月に1回実施されている。状態変化や問題が起きたときはカンファレンスを行い検討しケアを行っている。介護計画見直し時は本人、家族、職員、各関係者と話し合いをし介護計画を作成している。	利用者本人が目的を持って生活出来るような、介護計画を作成されるといと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施状況をきちんと記録に残している。気づいた事や情報は職員間で共有できるように、都度ケースカンファレンスやチーム会を行って共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援は、現時点で行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館祭やじげおこし、年二回の神社の祭りなど地域の行事に参加し楽しみを持って生活できるよう行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回定期的に併設の病院を受診している。家族の希望や必要に応じて他医院の受診も対応している。また、必要時には都度相談できる環境である。	併設の中海クリニックに月2回定期受診されます。状態変化で受診出来ない時は中海クリニックから来てもらい診察してもらえます。歯科も往診して頂いています。入所前のかかりつけ医の方もおられ、家族が同行受診されます。また、整形、眼科、皮膚科などの受診も原則家族にお願いしておられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配属されており、日々、情報交換や状態説明を行えている。看護師と連携が図れており助言や指導も都度受けることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、サマリーや電話などでの情報伝達を行っている。また、こまめに面会に行き安心感と共に、病棟看護師や相談員と情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのケースは少ないが、ご本人、ご家族の希望に添ったケア、支援に取り組んでいる。地域の関係者との取り組みは出来なかったが、運営推進会議を通じてケース発表を行った。	入所時に重度化や終末期に向けた方針の説明され同意書も頂かれています。本人、家族の希望に沿ったケア、支援をチームで看取りに取り組まれています。運営推進会議でも、看取りのケアについてホームの取り組みについてケース発表されました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は法人内であり、グループホームからも参加している。急変時の対応は、看護師から折に触れ指導、助言がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で、防災訓練を実施している。法人内での連絡体制や協力体制を築いている。地域との協力体制は不十分である。	ホームで年2回防災訓練を実施されています。1回は避難訓練を実施されています。法人の防災マニュアルを職員は周知しています。原子力に対しては、避難計画を市に提出されています。備蓄は法人全体で用意されています。	運営推進会議で、避難場所での利用者の見守りをお願いされても良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのあるがままを受け止め、羞恥心に配慮しながら言葉かけを行っている。時には、方言や馴染みの言葉を取り入れながら対応している。	法人の接遇研修に参加され、職員一人ひとりに周知されており、羞恥心に配慮し声掛けが行われています。一人ひとりの人格を尊重したケアが行われています。時には方言や馴染みの言葉を取り入れながら、プライバシーを損ねない対応したケアが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で思いや希望が表現できるよう、関係づくりや雰囲気づくりに心掛け言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況によって出来ないこともあるが、一人ひとりのペースを尊重しながら対応している。無理強いせず、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪など希望時に、ご家族に依頼したり地域の理美容室へ出掛けたりしている。表現できない方には時期を見て、ご家族へ依頼したり出掛けたりしている。入居者に行って頂くようにしている。毎朝、ブラッシングや洗面、衣類の乱れがないか職員でも確認し身だしなみを整えて頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や準備、片づけ等出来ることは一緒に行っている。食事も入居者と一緒のテーブルでコミュニケーションを取りながら行っている。また、誕生日にはその方の希望される好物を献立に取り入れている。	部署内の調理師にアドバイスを受けてホームの職員ですべて手作りでバランスの良い食事を作られています。簡単な調理や準備、片付け、下膳等を職員と一緒に行われています。誕生日には好物が献立に取り入れられ楽しめます。職員も一緒のテーブルで食べられコミュニケーションを取られていました。行事食や担当職員と外出し外食をされたり、弁当を取る等楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	部署内の調理師にアドバイスを受けながら、バランスの良い食事を提供している。食事や水分チェック表を活用し、摂取量が少ない方には補食や好みの飲み物を提供している。体重増加傾向の方や疾患にあわせて、主食量の調整や食事形態の変更も必要に応じて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、義歯使用の方は入れ歯洗浄剤を使用している。出来る限り自力でして頂き最後に仕上げ磨きが必要な方は支援している。残歯がある方や家族の希望がある方は、歯科受診をして歯石除去や定期チェックをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし把握するよう努めている。現在、オムツ使用者はいない。リハビリパンツを使用している方も自立し布パンツへと移行できるようケースカンファレンスを実施している。表現できない方には行動や時間を見てさりげなく言葉をかけている。	一人ひとりの排泄パターンをチェック・把握し、様子観察、声掛け、トイレ誘導を行いトイレで排泄の支援が行われています。リハビリパンツ使用の方も布パンツへ移行できるよう自立に向けたケースカンファレンスが行われています。排泄時はドアの外で待つことや部屋のトイレで排泄の声かけを行いプライバシーに気を付けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを毎朝摂取して頂いたり、腹部マッサージをしたり、適度な運動を行っている。必要時には看護師等と相談し、下剤を使用し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた時間内での入浴ではあるが、出来る限り希望に沿って入浴して頂いている。異性介護を嫌がられる方に関しては、入浴当番を代わる等柔軟に対応している。また、冬季は時に、ゆず湯や入浴剤を使用し、気持ち良く入浴できるよう支援している。	限られた時間内であるが週3回希望に沿い入浴支援が行われています。異性介助を嫌がられる方には同性介助の対応をされます。入浴を拒否される方はおられません。冬季にはゆず湯や入浴剤を使用し気持ち良く入浴出来る支援をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩、外気浴、体操、レクを行い活動的に過ごして頂いている。また、昼食後、30分程度の午睡の時間を設け休息して頂いている。気持ちよく眠りにつけるよう、室温や清潔なシーツ等ベッド周りの環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効用や副作用について、一人ひとりのファイルに入れいつでも閲覧できるようにしている。内服薬の変更や不明な点は、看護師に聞いている。内服薬が変更になった時等は特に、症状の変化を察知し、早い段階で医療職に相談する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族に聞いたり、ご本人の生活歴など情報収集したり、得意な事に合わせて力を発揮できるよう支援している。まだ、不十分な面もあり一人ひとりにあわせた気分転換や楽しみを持って頂けるような支援を検討中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての方ではないも、希望にそって外食をして頂いたり、温泉地での足湯や大山へのドライブ等へ出かけたりしている。また、若い頃の職場への工場見学にも出掛けて頂いたケースもある。外出には、家族にも同伴して頂くこともある。	ホーム周辺の散歩をされたり、希望に沿って担当職員と外出され、外食をされる方もあります。温泉地での足湯や大山にドライブに出かけられています。退職した職場に見学ツアーに行かれ、仕事の役割や在職時の部下と出会われた方もあります。家族に同伴して頂く時のあります。月1回食材の買い物にスーパーまで職員と一緒に出かけられる方もあります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、全ての入居者は所持していない。使用についても、職員を介して支払うことが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の近況や情報は、職員が電話や手紙、ホーム便りでお伝えしている状況で、自ら電話できる方は、ごくわずか。家族からの電話があった場合は、取り次いで話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて装飾を変え、四季を感じて頂けるよう努めている。	季節に合わせた貼り絵や行事の写真が廊下の壁に貼られていた。居間にソファがありくつろぐ事が出来る様になっています。畳のコーナーも用意されています。全体的に明るく、室温管理され居心地の良い空間作りができていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所や各所にソファを配置し、独りでゆっくり過ごせたり、入居者同士で会話をされたりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた物や持ち物、家族や知人との写真等を飾り居心地のよい居室作りを行っている。	ベッド、筆筒、床頭台はホームの備え付けです。畳の部屋もあるので、希望されれば布団での生活も出来ます。また、トイレ付の部屋も用意されており、気兼ねなく使えトラブルを起こしにくくなっています。使い慣れた持ち物持ち込まれたり、家族の写真を飾る等、各々居心地よく過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差には、目印のテープを貼り、トイレやお風呂など目で見てわかるよう表記している。導線上に障害物を置かないよう安全面に配慮している。		